

第1回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和7年6月20日（金）14:30～16:00

開催場所 本校会議室

出席委員	大塚 昌哉	佐久間藤也	天野 亜矢	加藤 義勝
	池田 範夫	宮下 博幸	保坂 一哉	福島 礼司
	篠原 泰三	佐藤 広志	佐山 功	

1 開会

2 学校長挨拶

昨日から期末テストが始まったところであり、生徒たちはよく頑張っている。特に3年生は進路実現に向け高い意識をもって取り組んでおり、学校全体として落ち着いた様子が見られる。

運営協議会の目的は、学校と地域住民や保護者が組織的・継続的に連携しながら一体となって、子供たちの教育や未来の学校づくりに取り組むこととなっている。本日協議いただくのは、本校の運営基本方針についてご承認いただくこと、本校の特色化・魅力化に関してご意見をいただくことである。

3 栃木県教育委員会挨拶

近年の生徒を取り巻く環境、学校がかかえる課題が複雑化・多様化している。教育改革・地方再生の観点からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されている。生徒や学校が抱える課題解決や生徒の豊かな成長には、育てたい生徒像や教育ビジョンを地域や保護者の皆様と共有し、地域一体となって生徒を育む、地域と共にある学校づくりが有効である。学校運営協議会は、学校と保護者・地域住民が共に知恵を出し合って、学校運営に意見を反映させることで、一緒に検討しながら生徒の豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組みとなっている。本県においては平成30年から、日光明峰高校・馬頭高校に設置され、令和元年度より益子芳星高校に学校運営協議会が設置されている。令和4年度には高等学校設置基準改正によって学校外部の関係機関との連携が努力義務化されるなど配置拡大に向けた動きが加速する中で、本県では令和6年に6校、7年度に8校、現在のところ20校の配置となっている。5月8日の教育委員会において、11名の皆様に委員として任命した。益子芳星高校では、今までも地域と連携・協働した教育活動が活発に行われ、様々な取組がなされてきている。改めてこの制度を活かしながら今後もその強みを活かしていってほしい。

4 出席者紹介

5 確認及び承認

- (1) 会則の確認 資料1、2のとおり
- (2) 委員の確認 資料3のとおり
- (3) 会長・副会長の選出、承認、挨拶

6 報告事項

- (1) 令和5年度活動状況報告 資料4のとおり
- (2) 本校の現状と課題について 資料5

本校生徒の状況として、男女比については36%：64%、出身中学校では大多数が芳賀地区の出身であり、若干名宇都宮地区からの生徒もいる。魅力化につながると思われる部活動についての加入状況としては、1年男子の運動部加入が多めで女子は文化部の加入が多めである。

進路の状況については就職が多くなっており、就職が79名、進学63名で、専門学校進学が多い。男子は就職、女子は進学が多い傾向にある。進学、就職ともに県内地元志向が強い。

カリキュラムに関しては令和4年度から6コース制となり、より生徒の興味関心や進路希望に合った学習を選択できるようになっている。コースごとに将来役立つライセンス教育の推進という点において各種検定試験に挑戦できるように設定されている。地域とのつながりを大切にする地域活動、社会貢献活動の充実という点では、ましこ未来大学をはじめ様々な活動において地域や益子町には大変お世話になっている。幼稚園実習では七井幼稚園、インターンシップでは芳賀地区の企業にお世話になっている。また、益子町が取り持ってくれた良品計画との連携ではデザインコースの生徒がジュートバックのデザインを行い、それを陶器市で販売するといった活動も行っている。さらに、生徒課外活動（ボランティア等）では益子陶器市ボランティアや七井幼稚園での保育ボランティアなど多数の活動に参加させていただいている。また、要請を受けてイベントに出向くことなどもあり、地域との強い結びつきによって活動させてもらっている。先日の会議で益子町の生涯学習課の事業としてもましこ未来大学が占める割合が高いということがわかった。

今年度の取り組みとしては、習熟度別少人数授業の充実や昨年度からはじまった通級による指導がある。また、本校の課題として、入学志願者の確保、魅力化・特色化の推進、多様化する生徒の対応などがあげられる。

- (3) 授業における図書館の活用について 資料6のとおり

令和4年度入学生の担任を務めた3年間で実施した、図書館を活用した生徒の主体的な学びを促す活動の実践をまとめた内容である。

生徒たちは勉強が楽しければやるので、主体的な学びを促すためにはまず意欲や関心を高めることが大切だと考えた。現在は変化が激しく将来の予測が困難な時代であり、論理的に考える力や多角的に捉える力を身につけるこ

とがそのような時代を生き抜く力の育成につながると考えた。そのような力を育成するための、試行錯誤、主体的な学び、他者の多様な考えからの学びなどについては、図書館ですべて行えると考えた。しかし、実際には図書館利用が少ない状況にあり、まず図書館に足を運ばせるために、授業で図書室を使うようにした。また、生徒はよく「読みたい本がない」というので、本を教員が選ぶこととした。

まず、1年の「現代の国語」の「何のために『働く』のか」という文章に関連して実践を行った。本校生徒の進路は約半数が就職であり、地域の社会の担い手となっている。そこで「働くこと」について考えさせたいと思った。ただ教科書を読むだけではつまらないので、クラスごとに一人一人違う本を与え、他クラスに自分と同じ本を読んでいる人がいるという状況にした。生徒の希望進路を把握して、できる限りその生徒の進路にあった本や生徒の普段の生活の様子から読ませたい本を割り当てた。授業で読み進め、感想や考えを付箋に書いて貼りながら、読み取った内容をワークシートにまとめる活動を行った。次の時間には他のクラスの生徒の付箋も貼ってあり、その感想や意見を読めるようにした。生徒からは、他の人の意見を読みながら本を読み進めることができておもしろかった、本を読んだことで自分のことを好きになれたし、これからの人生が楽しみにもなった、などの感想があった。

また、3年生の「国語表現」では適切な言葉遣いに関する実践を行った。3年生はもうすぐ社会人になる時期だが、日頃は同世代の生徒との言語コミュニケーションが中心の生活を送っている。社会に出ると、幅広い世代とのコミュニケーションが必須であり、対面、電話、メール、文書など、様々なコミュニケーションが必要になる。そのような力を身に付けさせるために、適切な言葉遣いについて学ばせたいと考えた。そこで言葉に関する悩み相談の回答者として回答内容を考える活動を行った。「生協の白石さん」や読売新聞の人生相談（大正時代のもの）などを参考に、言葉に関する質問の回答を考えることを通して、改まった場にふさわしい言葉遣いや適切な敬語の使い方などを身につけることを意図した。回答を考える活動で、生徒は数種類の国語辞典を活用し、言葉の意味や使い方を検証した。同じ言葉でも辞書によって解釈が異なるため、生徒はその点もふまえた回答を作成することができた。辞書のおもしろさを実感した、相手に分かりやすく伝えることの難しさや大切さを感じることができた等の反応が見られた。

2年生の「論理国語」では、栃木県立図書館の学校図書支援セットを活用して授業を行った。紙の本とデジタルの本について、各自でテーマを設定し、それについて複数の資料を参考にしながらワークシートにまとめ考えを深める活動を行った。約100冊の本をテーマごとに分類して並べ、生徒が本を替えながら自由に選べるようにした。また、読み進めながら気になったところに付箋を貼るようにした。授業者も事前にすべての本に目を通し、テーマを考

える上でヒントになりそうな部分に付箋を貼った。これにより、テーマや本の内容が多少難しくても、生徒は他の生徒や授業者が貼った付箋の部分を参考にすることができる。生徒からは、他人の意見を聞くことはおもしろい、深く考えることの大切さが分かった、などの反応があった。

他に、活動の場としての図書館を利用する際、近年教育効果が期待されているボードゲームを活用した。ボードゲームは複数の大学の教授や研究者からも効果的な教育ツールとして注目されている。本校でも数種類のボードゲームを購入し授業で活用したが、その活用を通して生きる力、コミュニケーション力、学力、コストパフォーマンス、ストレス発散などがボードゲーム学校教育活用のキーワードであると感じた。そしてボードゲームを活用すると誰もが笑顔になれることを、授業の中で実感した。

これまでの図書館を活用した主体的な学びを促す活動を通して、生徒は他者と関わりながら、多角的に物事を捉えることができていた。また、今まで関心がなかったものに興味を持ったり、目標を見つけたりするきっかけとすることができていた。課題としては、継続活用の方策を探ることである。持続可能な活用の方法を考えていきたい。また、教科等横断的な学習での活用や、生徒が授業で実現できていた主体的な学びを日常生活でも活用していくことも課題である。

7 協議

(1) 令和7年度学校運営方針について 資料7

※スクールミッション⇒目指す生徒像(スクールポリシーより)⇒基本理念⇒重点目標(今年度、特に重点とする目標(●印))の説明

今年度の重点目標(●)はほぼ昨年と同様であるが、「地域とともにある学校づくりの推進」において、(1)の生徒、保護者、地域、中学生へ積極的に情報を発信し本校への理解を深めるから、(2)の本校の特色を活かした地域との連携、地域貢献活動を推進するに変更した。昨年度、中学校訪問を実施したりHPでの情報発信を充実させたりしたので、ある程度達成できたと判断した。そこで今年度は、“理解を深める”から“活動の充実”を意識することとした。(2)については、今年度のましこ未来大学において2年次全体で取組むことになっており、その中の学習内容を検討しながら、魅力化・特色化の推進に力を入れていきたい。

また、「特色ある教育課程の醸成と編成と実施」(3)の通級指導については、コミュニケーションや人間関係形成などにおいて困り感を抱えている生徒や教員がこのままでは将来困ってしまうかもしれないという生徒対象に自立活動支援を行っていけるよう整備していきたいと考えている。

- 報告事項の中にあった本校の課題や図書館の活用はスクールミッションにリンクしていると感じた。

- きめ細やかな通級指導の実践に関して、どのような改善がみられたか。
- ◎ 2名の生徒への指導について改善が大きく見られた。学校生活で困っている点について、放課後の時間を使って通級指導担当が対応した2名については今年度も継続指導の予定であるが、上手くできなかった部分が上手くいくようになってきているので、1学期終了時に指導は終了の見込みである。現在新規で1名面談等を進めて、今後の通級指導について検討しているところである。
- 先ほどの国語科による図書館を活用した指導の取り組みにはとても良いと思うが、生徒はどのように変わったか。
- ◎ 自分以外の意見聞くことが楽しかったという意見があり、交流の場を設けて欲しいという要望もある。他人の意見を聞いて、考えを広げるということができていたように感じている。
- 重点目標の分かる授業を展開し学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るための取組だと感じた。
- 地域と共にある学校づくりの推進としての地域貢献活動では益子町地域包括連携による活動として、昨年度まで進学コースで実施してきたが、今年度は2年生全員が対象となり、対象生徒が増えたという点で先生方に苦労や負担感がないか伺いたい。
- ◎ 地域連携担当教員がリーダーシップを発揮しながら取り組んでいるところではあるが、負担はあるのではないかと思います。持続可能なものにしていく上で業務の計画上でバランスが大切かと思う。
- 図書室を活用した取り組みは、3年間を見通した構造的な形での授業展開であり、実社会で活用できる能力を育成するものとなっており、確実に生徒の心に残ったのではないかと。扱われる内容も担当した先生の図書館への思いが組み込まれたカリキュラムであると思うが、広く周知してどの先生でもできるような取り組みになると良いのではないかと感じた。小学校や中学校でも並行読書という同様の読み方をするケースもあるが、今回の報告の工夫ある授業展開は大変参考になった。
- 推し活で「やばい」という言葉しか出てこないという内容の本を読んだ。幼稚園生も「やばい」とよく使う。「驚いたのか」「感動したのか」等、気持ちを補足している。図書館は知識の宝庫だと思うので図書館を活用することは大切だ。古い本も大切だが、生徒のためにその時代にあった新しい本を購入できるよう予算を確保することも必要だ。スクールミッションにある多様な学習機会や地域との連携また、本校の特色である地域とともにある学校づくりなど、地域貢献活動をますます推進していただきたい。
- スクールミッションを中心に学校が良い方向に進んでいる。
《運営方針について 拍手で承認》
- (2) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換
 - 本校の現状と課題の報告で、特色化につながる具体的な取り組みが明確に

示されていた。また、これまでの運営協議会でいただいた特色化等に対する意見まとめた資料8では、今年度の新たな取組が組み込まれていると思う。スクールミッションにタイアップした取組が検討されていると思うが、学校の考え・特色化に対してご意見をいただきたい。

- ましこ未来大学では「町民のつどい」など生徒が生き生きと主体的に活動していた。教育活動の中で主体性を伸ばす活動が他に何かあるか。
- ◎ 総合的な探究の時間では、2年次(ましこ未来大学)では、各コースのテーマに合わせて、課題を設定して生徒が活動を行っている。また、1年次では「地域しごと図鑑(仮題)」として職業調べの活動をしている。これらの活動を通して生徒一人一人の主体性を育めるよう工夫しているところである。
- インターンシップ受け入れ事業所の講師料とはどういうことか。
- ◎ インターンシップでお世話になった企業から出前講座の話があったが、講師料がかかるということで、現在検討中である。
- 部活動における中高連携について、吹奏楽部が発表会をやっていたと思うが、広告で協力したい。地域の企業等にもお願いしても良いのではないか。
- 吹奏楽部による定期演奏会、マラソン大会、など充実した行事があり、多くの人に知ってもらい、参画していただけるとよい。時折、学校行事やインターンシップ、町の行事や地域の伝統行事などがかぶってしまうことがある。また、陶器市など町の重要な行事と学校行事(P T A行事)が重なったこともあった。行事の調整はしてもらうことはできないのか。
- 行事の調整は非常に大切である。他機関との行事調整は困難な場合もあるが、なるべくバランスを取りながらスケジュールの決定をすすめられるとよい。

今後は、今までのアイデアを醸成発展させる方向で進めてほしい。

(3) その他

特になし

8 その他

第2回の学校運営協議会の予定について 10月または11月初旬を予定

9 閉会